



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

7月は『ラヴェンダー』

# Vol.38 2022.7.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

## それでも世の中 変わらない

何があっても、どうしても現状を変えたくない”意識”が幅を利かせ、重苦しい”空気”が淀み、結局何も変わらないことになってしまふ。風も川の流れもむなしばかりだ、決して諦めたくはないが:

変化を拒むことは嫌悪よりもむしろ怖れなのかもしれない。どんなに楽しいゲームでも長く続けると、やはり飽きる(定番化しても、熱狂することはない)。とにかくただただ怯えることは”停滞”につながり、やがて淀む。そこに許容はしないまでも、諦めが生じ、それを支持されたと言ひ張るものたち、利用されるがまま、それは悪用への大義名分とされてしまうのである。それでも諦めたくはない、だから唯一の?権利だけは行使したいと思う。声張り上げて行進するだけが”参加”ではないはずだ。見て見ぬふりするものに批判する資格はないが、参加するもの足を引っ張ることとは”罪”だ、誰かの都合の良い存在にだけはなつてはならない!



## 【こんな唄に出くわした⑥】

### この…駅で

作詞 大津あきら  
作曲 浜圭介  
歌 石井聖子

たそがれの人並みを眺めながら混み合う駅であなたを待ってた急ぎ足であなたが駆け寄るたびに胸が震えたの一緒に暮らそうって抱き寄せた夜さえ  
遠い幸せになるなんてあなたでなくちゃ愛せない  
他の人には飛び込めない  
今でも変わらない私を  
そつと知らせたいの この駅で

2011年6月発売というから、さほど古いものではないが、“昭和の匂い”プンプン!で、一〇年を経て突如出くわしたところ、よく沁みたというわけだ。偶然にもこの唄を聴くことになる直前、坂本スミ子の『たそがれの御堂筋』というのを何十年かぶりに聴いてみて、“沁みる唄のリスト”に入れておこうと決めたところで『この：駅』に至ったのだが、実の母娘だそうで、現在は亡くなった父親のあとを継いで代表取締役、つまり実業家ということらしい(ウィキペディアによると)。いつも思う、飛行機の別れはあつけなさ過ぎて、船は逆に実に未練がましい:そこでやはり駅、冷酷にも、時刻表通りにドラマは動き、「夜霧に消えゆく最終列車」であつてこそこの別れに相応しい舞台である。

## 【今月の花 七月・文月】

### ラヴェンダー

調べてみると、和名は「薫衣草(くんいそう)」というのだそうで、なんだかどつてつけたような名前だが、その通りといえばその通りで、反論異論の余地はない!

## 【こんな映画を観てきた】

### 『サイレント・ランニング』 Silent Running

-1972/米 監督:ダグラス・トランブル

地球上の植物が絶滅してしまったのちのお話。わずかに宇宙船のドームで緑の草花や木々が育てられているだけだった。乗り組んでいる植物学者フリーマン・ローウェル(ブルース・ダーン)に、ある日、地球からドームを爆破して帰還せよという命令が下るが、彼は悲しみ、怒り、帰還したがっていた他の3人を殺害し小型ロボットをプログラムし直し、植物育成の手助けをさせる。地球の宇宙船が救出にやってくることになり、逃げられぬと悟ったローウェルは、ロボットに後を託してドームを宇宙空間に発射し、自らの宇宙船を爆破した。ドームではロボットが草花にせっせと水を与えている。SFというのは、あまり好きなジャンルではないが、別格としたいのが、『2001年宇宙の旅』とこの『サイレント・ランニング』。人類の未来に希望を残す…というのが最大のテーマだったのかもしれないが、『2001年…』ほどの壮大さはなく、生命輪廻?の哲学性?も感じさせない、そんな”コンパクト感”が好ましい一作ではあった。